

妊娠中、ビタミンD多く摂取

子供のアレルギー鼻炎少

富大調査

富山大学術研究部医学系小児科学講座などで行った研究で、妊娠中にビタミンDを多く摂取した母親から生まれた子どもは、アレルギー鼻炎の発症率が少なかったことが明らかになった。

合に比べ、3歳時点でアレルギー性鼻炎になる頻度が低かったとの研究成果を発表した。

環境省が2010年度から継続する「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に登録

された親子7万3209組を対象に、妊娠中の食事からビタミンDの摂取量を調査。3歳時点でのアレルギー症状やアレルギー疾患の発症の有無について関係を調べた。

ビタミンD摂取量が多い

ほど、少なかったグループに比べてアレルギー性鼻炎の症状が少なかった。妊娠中にビタミンDを多く摂取することにより、子どものアレルギー疾患のリスクを減らすことができる可能性があるという。

ビタミンDは骨の健康に関与するビタミンで、魚やキノコに多く含まれ、日光を浴びることで生成される。

研究は元富山大学術研究部医学系小児科学講座の清水宗之さん（現新潟県厚生農業協同組合連合会糸魚川総合病院小児科医長）らによるもので、成果は8月に医学系専門誌「インターナショナル・アーカイブス・オブ・アレルギー・アンド・イミュノロジー」にオンライン掲載された。